

北沢小学校後利用方針

平成 3 0 年 3 月
世 田 谷 区

目次

1	北沢小学校の施設概要.....	1
	(1) 施設・敷地の現況.....	1
	(2) 用途地域等による制限.....	1
	(3) 周辺の学校の状況.....	1
2	北沢小学校後利用方針の策定にかかる検討経過.....	2
	(1) 北沢小学校後利用の方向性の検討.....	2
	(2) 北沢小学校後利用方針の策定.....	4
3	北沢小学校後利用の方針.....	5
	(1) 北沢小学校後利用の基本的な考え方.....	5
	(2) 北沢小学校後利用の機能等.....	5
	(3) 地域住民との意見交換の場の継続.....	5
	(4) 将来的な施設整備と活用スケジュール.....	6
4	北沢小学校後利用の方針に基づく取組み.....	7
	(1) 平成30年度取組み.....	7
	(2) 平成31年度以降取組み.....	7

<資料>

- 資料1 第1回意見交換会 開催結果
- 資料2 第2回意見交換会 開催結果
- 資料3 第3回意見交換会 開催結果
- 資料4 第4回意見交換会 開催結果
- 資料5 第4回意見交換会 当日資料「北沢小学校後利用に向けた利用方針の考え方(案)」
- 資料6 区民説明会 開催結果

<参考>

- ・学校跡地活用にかかる基本的な考え方(共通)
- ・用途地域による建築物の制限

1 北沢小学校の施設概要

(1) 施設・敷地の現況

所在地 世田谷区北沢四丁目32-20

敷地面積 約6,332㎡

延床面積 約5,150㎡

構造 RC造 3階建他

施設概要 教室棟 : 昭和45・46年(築48年・47年)

体育館・特別教室棟 : 昭和45年(築48年)

新BOP・プール棟 : 昭和56年(築37年)

耐震性 教室棟、体育館・特別教室棟 : 平成21年度に耐震補強を実施済みであり、耐震性は確保されている。

新BOP・プール棟 : 耐震診断の結果、耐震性は問題なし。

(2) 用途地域等による制限

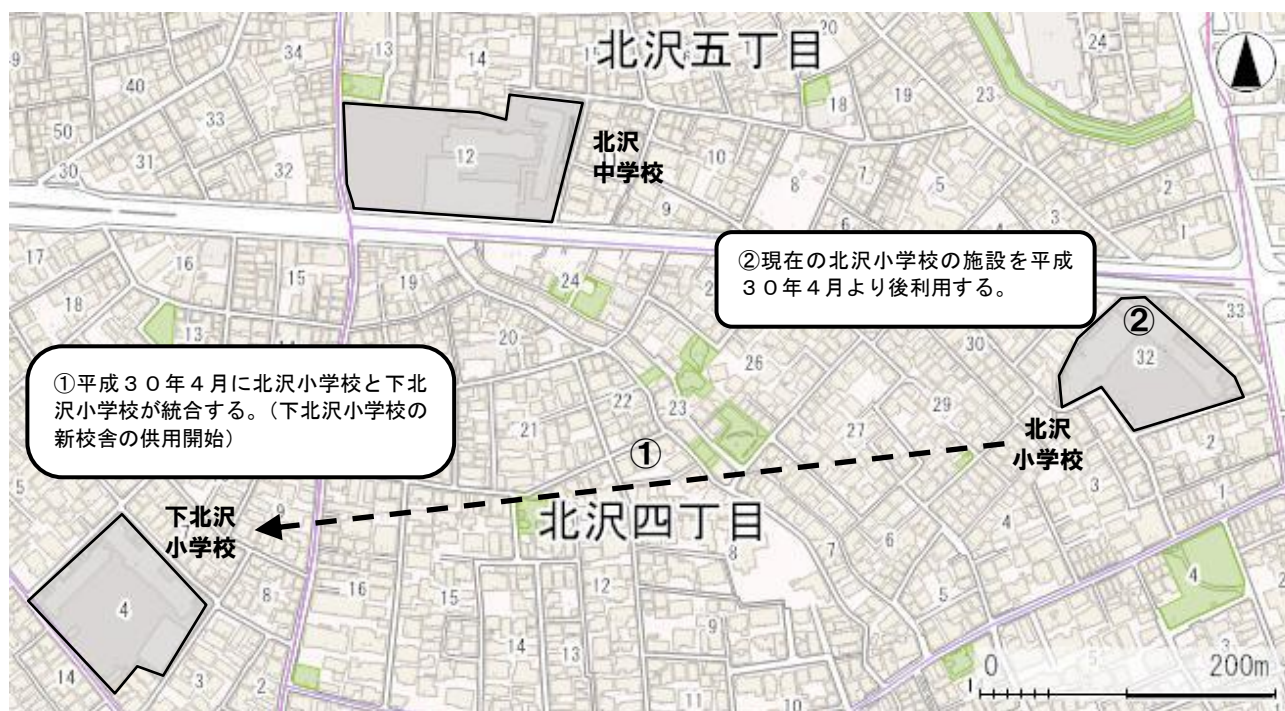
主たる用途地域 : 第一種低層住居専用地域

(建ぺい率50%、容積率150%、第一種高度地区(高さ10メートル制限)、準防火地域)

※既存体育館は、建築基準法第55条による特定行政庁(区)の許可を得て、高さを10メートル以上としている。

(3) 周辺の学校の状況

【配置図】



2 北沢小学校後利用方針の策定にかかる検討経過

(1) 北沢小学校後利用の方向性の検討

北沢小学校後利用方針の策定にあたり、北沢小学校後利用の方向性について地域の方々から意見等を伺うため、「北沢小学校後利用に向けた意見交換会」を以下のとおり実施した。

① 経過

第1回 北沢小学校後利用に向けた意見交換会

- ◇日時：平成29年8月2日（水）19時～21時20分
- ◇場所：北沢小学校 ランチルーム
- ◇参加者：63名（区職員を除く）
- ◇内容：基本条件等の説明（建築基準法上の制限、区としての考え方）、グループワーク「質問項目、心配事のまとめ」

第2回 北沢小学校後利用に向けた意見交換会

- ◇日時：平成29年9月6日（水）19時～21時
- ◇場所：北沢小学校 家庭科室
- ◇参加者：38名（区職員を除く）
- ◇内容：「第1回意見交換会での質問・提案、区の考え方」の共有、グループワーク「この場所でやりたいこと」

第3回 北沢小学校後利用に向けた意見交換会

- ◇日時：平成29年10月15日（日）10時～12時
- ◇場所：北沢中学校 被服室
- ◇参加者：20名（区職員を除く）
- ◇内容：「北沢小学校後利用に向けた利用方針の考え方（たたき台）」等の共有、グループワーク（テーマ：子どもの居場所、地域コミュニティ）

第4回 北沢小学校後利用に向けた意見交換会

- ◇日時：平成29年12月2日（土）10時～11時40分
- ◇場所：北沢小学校 家庭科室
- ◇参加者：29名（区職員を除く）
- ◇内容：「北沢小学校後利用に向けた利用方針の考え方（案）」等の説明、全体での意見交換

② 意見交換会で出された主な意見等

意見交換会では、まず、当面の間は現在の施設を北沢中学校の第2校舎・第2体育館・第2校庭等（以下、「第2校舎等」という。）として活用しながら、避難所機能と地域コミュニティの核としての機能を継続するという区としての考え方を示した上で、地域の方々と意見を交換した。意見交換会で出された主な意見等は以下のとおり。

《子どもの居場所》

- ・放課後の居場所（BOP、学童クラブ、大人の見守り、遊び場開放）
- ・児童館や青少年会館の機能

《地域コミュニティの場》

- ・地域の人が気軽に集える場、町会の活動の場
- ・現在の活動の継続（野球、サッカー、バレーボール、合唱等）

《学習や文化活動ができる場所》

- ・自習室、学習支援、図書館機能、図書室、文化活動の場（伝統文化、演劇等）

《防災機能の確保》

- ・現行の避難所機能の確保、防災倉庫

《周辺環境や周辺住民等への配慮》

- ・みどりへの配慮、施設利用者と周辺住民とのトラブル防止、防犯

《利用・運営の仕組み》

- ・利用団体の調整等のしくみ、行政（学校）による施設管理

《北沢中学校第2校舎等としての活用》

- ・けやきネット利用の継続
- ・小規模特認校、下北沢小学校の第2校舎
- ・部活動等による魅力向上、学び舎（北沢中学校と下北沢小学校）の交流

※その他の意見交換会の意見等は資料1～4参照

(2) 北沢小学校後利用方針の策定

① 北沢小学校後利用検討の主な視点

◇北沢中学校による活用

- ・北沢中学校の魅力向上に資する校舎等の活用を検討する。

◇防災機能（避難所等）の維持

- ・地域の避難所としての機能を維持する。

◇地域コミュニティの核としての機能の維持

- ・北沢小学校が地域において果たしてきた地域コミュニティの核としての機能を維持する。

◇その他

- ・多くの子どもたちが学び成長してきた場であることを踏まえた上で、世田谷区全体の行政需要に対応する施策等を検討する。

② 北沢小学校後利用方針（案）の作成

「北沢小学校後利用に向けた意見交換会」の中で地域住民から出された意見をもとにまとめた「北沢小学校後利用に向けた利用方針の考え方」及び行政需要等を踏まえ北沢小学校後利用方針（案）を庁内で検討し、作成した。

※「北沢小学校後利用に向けた利用方針の考え方」は資料5参照

③ 区民説明会

区で作成した「北沢小学校後利用方針（案）」にかかる区民説明会について、北沢小学校・下北沢小学校の通学区域内の各戸への案内チラシのポスティング、北沢小学校・下北沢小学校・北沢中学校の保護者への案内チラシの配布等による周知を行い、説明会を実施した。

◇日 時：平成30年3月28日（水） 午後7時～8時30分

◇場 所：北沢中学校 視聴覚室

◇参加者：29名（区職員を除く）

◇内 容：これまでの検討経緯及び北沢小学校後利用の方針、
子どもの居場所の概要

3 北沢小学校後利用の方針

北沢小学校後利用では、用途地域等の制限、既存施設の現況等の立地条件や経費負担等の財政状況、区の課題、地域住民の意見等を踏まえ、以下のとおり活用する。

(1) 北沢小学校後利用の基本的な考え方

平成30年4月以降、当面の間は、現在の学校施設を維持し、北沢中学校の第2校舎等として活用しながら、北沢小学校が担ってきた避難所機能と地域コミュニティの核としての機能、子どもの居場所としての機能を維持する。

現在の学校施設の活用にあたっては、区の財政状況を踏まえ、校舎の大規模改修など過度な経費はかけずに、施設の有効活用を図る。

将来的な施設整備は、地域住民等との意見交換を継続しながら、施設の利用状況、建物の状況、行政需要等を踏まえて検討する。

(2) 北沢小学校後利用の機能等

既存施設を北沢中学校の第2校舎等として、次のとおり5年程度活用する。

①北沢中学校第2校舎等

・北沢中学校は第2校舎等を活用した学校活動等(教育活動や放課後の活動等)を行う。

②災害時の避難所機能

・災害時の避難所として活用する。

③学校施設の区民利用

・北沢中学校の学校活動等での活用を基本とした上で、空き時間・空き教室の学校開放を行う。

・北沢小学校を拠点としていた地域活動団体や地域スポーツ団体などの活動については、学校等と協議しながら、地域活動の継続に努める。

・その他の学校施設の区民利用の具体的な方法については、地域活動や周辺保育施設等の状況を勘案し、学校等関係所管と協議しながら検討する。

④子どものための場としての活用

・子どもが安全に過ごせる居場所や学習支援の場として、学校開放の校庭や校舎を活用する。活用方法については、引き続き検討する。

⑤行政需要への対応

・その他、世田谷区全体の行政需要に対応する施策等を引き続き検討する。

(3) 地域住民との意見交換の場の継続

施設利用と将来の活用に向けた地域と区の意見交換を継続する。

(4) 将来的な施設整備と活用スケジュール

将来的な施設整備は、地域住民等との意見交換を継続しながら、施設の利用状況、建物の状況、行政需要等を踏まえて検討する。



※意見交換をしながら、運営の課題や方向性を共有する。

4 北沢小学校後利用の方針に基づく取組み

(1) 平成30年度取組み

①施設活用

◇学校機能

北沢中学校の第2校舎等として、学校活動等（教育活動や放課後の活動等）を行う。

◇避難所機能

災害時の避難所機能を継続する。

◇地域利用及び学校開放の取組み

- ・町会、自治会や、現在学校施設を利用して活動している団体などが、学校長承認により空き教室等を利用する。
- ・空き教室等を利用し、代田児童館等の支援を受け地域の子どもの居場所としての活用を図る。また、多様な子どもの居場所となる取組み等の実施場所として、施設の有効活用を図る。
- ・けやきネットによる施設貸出しを継続する。

②意見交換の継続

施設利用と将来の活用に向けた意見交換を継続する。

(2) 平成31年度以降取組み

◇北沢中学校の第2校舎等として活用しながら、学校開放等を継続する。

◇施設の利用状況、区の課題や財政状況、地域住民などの意見等を踏まえ、学校等関係所管と協議しながら検討する。

《資料 1》

第 1 回 北沢小学校後利用に向けた意見交換会 開催結果

- 1 日 時：平成 29 年 8 月 2 日（水） 19 時～21 時 20 分
- 2 場 所：北沢小学校 ランチルーム
- 3 参加者：区民出席者 63 名
区側出席者 政策企画課長、教育総務課長、北沢総合支所地域振興課長、
公共施設マネジメント推進課担当係長 ほか
- 4 内 容：基本条件等の説明（建築基準法上の制限、区としての考え方）、
グループワーク「質問項目、心配事のまとめ」

グループワーク後の主な質疑応答等の内容

① 意見交換会の位置づけについて

参加者の質問	区の回答
既に区の計画が決まっているのではないかと形ばかりの意見交換会にならないか。	北沢小の後利用について区として具体的に決定している事項はまだありませんが、現在の建物をそのまま活用し、避難所機能や地域コミュニティの核としての機能を維持することを前提に、後利用を検討したいと考えています。 今後、意見交換会（ワークショップ）で議論していただいたご意見を踏まえ、区として後利用方針を策定します。

② 当面、中学校として活用することについて

参加者の質問	区の回答
今の施設を北沢中学校として使うという説明を受けたが、具体的にどう使うのか？	部活動などで活用することを考えています。 具体的にどのように使うかは、意見交換会でのご意見を踏まえながら、今後、北沢中学校と話し合っていきます。
中学校に位置づけられても、住民が利用できるのか？	学校の地域開放の取組みについては、北沢中学校と具体的な運用等をつめる必要がありますが、基本的に、現在と同様の形で地域開放を行えるよう調整したいと考えています。そのためにも、皆様がどのように利用したいのか、ご意見をいただきたいと思えます。
「当面の間」とはどれくらいの期間か？その後のスケジュールを知りたい。	まず、5年程度は現状の施設をそのまま活用したいと考えています。その後の活用については建物の状況を見ながら、地域の状況、行政需要などを総合的に判断し、地域の方々と意見交換をしながら検討したいと考えています。
学校として位置づけるのであれば、小学校のままではよいのではないかと？	平成 30 年 4 月からの統合は決定しているので難しいと考えます。距離や管理の面からも、北沢中学校として位置づけたと考えています。

③ 行政需要について

参加者の質問	区の回答
中学校の部活動以外で、区としては何をやるのか？	意見交換会で議論していただいたご意見や、多くの子どもたちが学び成長してきた場であることを踏まえながら、区としての後利用の検討を進めます。 まだ具体的な内容は決まっていますが、現在の施設の空き教室を活用し、子どもの声が聞こえ、子どもの支援につながる活用を検討したいと考えています。

④ 防災施設について

参加者の質問	区の回答
避難所としての整備が必要である。避難所として使えない期間があるのではないか？	平成30年4月からも学校施設をそのまま活用し、避難所として継続したいと考えています。避難所機能は、現在の機能の維持を前提に考えています。

⑤ 施設の改修、耐震性について

参加者の質問	区の回答
今の建物は改修するのか？耐久性、耐震性は大丈夫なのか？	<p>現段階では、改修工事の予定はなく、建物や校庭をそのまま利用したいと考えています。</p> <p>建物の中で最も古い棟は築47年です。区の公共施設の考え方では耐用年数としては築65年程度までで、概ね築60年程度で建て替えを検討することになっているため、あと10数年は使用可能です。</p> <p>耐震補強も実施済みであり、耐震性は確保されています。</p>

⑥ 小学校の統合について

参加者の質問	区の回答
学校統合を知らなかった。地域への周知が不十分だ。区に対して不信感がある。	この度の下北沢小学校との統合に関しては、PTA役員や各町会長の方々などと話し合いを重ねたうえで、教育委員会として統合時期を決定し、北沢小学校保護者と就学前保護者等を対象に説明会を行いました。その後、学校設置条例の改正を区議会で議決いただきました。

※8月下旬に『北沢小学校後利用に向けた意見交換会について』というお知らせを北沢小学校・下北沢小学校の通学区域内の各戸に戸別配布した際、北沢小学校と下北沢小学校の統合までの経緯を、以下の通り掲載した。

北沢小学校と下北沢小学校の統合までの経緯

- ・平成25年9月 世田谷区立小・中学校の適正規模化・適正配置に関する具体的な方策(第2ステップ)策定
守山小学校・東大原小学校・北沢小学校の3校の統合を決定
- ・平成25年11月～平成28年1月
新校準備会(保護者・地域・学校の代表で構成)を設置し、新校の校名・校歌や通学路の安全対策などを検討
- ・平成28年4月 下北沢小学校開校(守山小学校と東大原小学校を統合)
- ・平成28年8月～11月 北沢小学校と下北沢小学校の統合時期決定に向けた話し合い及び通学路点検
(PTA役員、学校運営委員、北沢地区町会長の方々など)
- ・平成28年11月 北沢小学校と下北沢小学校の統合時期を平成30年4月に決定
- ・平成28年12月 統合時期について、北沢小学校保護者などへお知らせ配付、説明会の実施
- ・平成29年3月 学校設置条例の一部改正の議決(議会の承認)

《資料2》

第2回 北沢小学校後利用に向けた意見交換会 開催結果

- 1 日 時：平成29年9月6日（水）19時～21時
- 2 場 所：北沢小学校 家庭科室
- 3 参加者：区民出席者 38名
区側出席者 政策企画課長、教育総務課長、教育環境課長、北沢総合支所地域振興課長、公共施設マネジメント推進課担当係長 ほか
- 4 内 容：「第1回意見交換会での質問・提案、区の考え方」の共有、グループワーク「この場所でやりたいこと」

質疑応答の内容

参加者の質問	区の回答
意見交換会で提案したのに対して、区はどのような仕組みで決めるのか。	第4回意見交換会で意見をいったんまとめさせていただいて、利用方針に反映させていただきます。 まずは平成30年4月から、この施設をどう使うのかを今年のうちを決めたいのですが、来年の4月から実際に利用してみると、様々な意見が出るでしょうから、来年度以降も意見交換を続けたいと考えています。 区が方針を決める仕組みとしては、会社の役員会のように、区でも意思決定機関があり、その中で議論した上で、区議会に提示し議会の意見も聞き、段階を踏みながら決まっていきます。
決まった利用方針は地域に報告されるのか。	このエリアにとっての大事な場所でもあるので、3月くらいに、区民向け説明会という形で利用方針を報告したいと考えています。

グループワークで出た主な意見

活動の継続	○これまで北沢小学校でやっていた活動を継続して行いたい 野球、サッカー、バレーボール、合唱、北小フェスティバル ほか
子どもの居場所	○子どもがいつでも過ごせる居場所をつくりたい 本が読める、卓球やバドミントン、ゲームなどができる場所、ハイレベルな児童館、新BOP、保育所、保育サロン ほか
活動や集いの場／多世代交流	○子どもから高齢者まで、様々な地域の人誰でも寄れる場所が欲しい 地域の多目的スペース、高齢者が子どもの面倒を見る場所、町会の活動の場、伝統文化の活動の場、図書室の開放、高齢者の活動（囲碁、将棋、ゲーム、カラオケ等）、ヨガ、太極拳、子ども食堂、まちの食堂、料理教室 ほか
スポーツ	○平日や休日、夜間も使えるようにしたい 校庭、体育館、プール、健康器具 ほか
NPOの活動や拠点	○演劇のNPOが活動をしたり、事務所として活用したい
管理体制／ルールづくり	○施設管理、ルールづくりや体制づくりを検討したい 清掃や防犯管理はだれがやるのか、施設の利用ルールが必要、地域活動に関する部分は北沢中が運営するのは難しいので、住民が主体的に関わる、地域が優先的に使える方法を検討する、利用団体が定例会を開催し情報交換する ほか
心配事など	○施設の使い方が変わるので、周辺住民の方の心配も考慮すべき ほか

《資料3》

第3回 北沢小学校後利用に向けた意見交換会 開催結果

- 1 日 時：平成29年10月15日（日）10時～12時
- 2 場 所：北沢中学校 被服室
- 3 参加者：区民出席者 20名
区側出席者 政策企画課長、教育総務課長、教育環境課長、
北沢総合支所地域振興課長、児童課長、
公共施設マネジメント推進課長 ほか
- 4 内 容：「北沢小学校後利用に向けた利用方針の考え方（たたき台）」等の共有、
グループワーク（テーマ：子どもの居場所、地域コミュニティ）

グループワークで出た主な意見

（1）北沢小学校後利用に向けた利用方針の考え方（たたき台）について

該当箇所	参加者の意見
北沢中学校による活用	・北沢中の意向が知りたい。地域利用にどの程度制約があるのか心配。 ・北沢中の第2校舎という事が前提になっているのはなぜか。下北沢小学校の第2校舎とすると新BOPが実施できるのではないか。
避難所	「北沢中学校として活用することにより」の部分はいらないのではないか。
子育て世代の活動	子育て世代が活躍できないと地域がつながっていかない。核が維持できなくなる。
子どもの安全	「子どもの安全を最優先する」という視点（キーワード）を入れる。 子どもの安全の確保の取組みは、区が担うべきことではないか。
表現の幅が広すぎる	いずれ何でもありになってしまうのではないかと心配。
中学生の自習室	「自習室や学習支援」という視点（キーワード）を入れる。
放課後の居場所	「子どもの放課後の居場所」という視点（キーワード）を入れる。
休暇中の居場所	「夏休みや休暇中の居場所」という視点（キーワード）を入れる。
学びの場	・「学ぶ場」という視点（キーワード）を入れる。 ・上級生が下級生に勉強を教えたり、地域の大学生が学習支援をしたりする場所。
行政需要とは何か	30年度以降も意見交換を重ねていく中で、地域に不足する公共的機能として必要なものは検討してほしい。議論の中で出てきた機能で、行政の役割と思われるものについて需要を満たしてほしい。
安全性の検討	安全性については急ぎの課題なので今年度検討してほしい。
5年の表記	「概ね5年」の表記の仕方については地域と齟齬がないように、十分検討してほしい。
表現	文言が堅くて伝わりにくい。
議論の進め方	行政の案に対して意見を言っているだけではないか。地域の要望を尊重してほしい。

(2) 施設の活用イメージや運営について

①子どもの居場所、活動の場

項目	参加者の意見
放課後	放課後の居場所の確保が必要。
休暇中	夏休みや、休暇中の子どもの居場所も必要。
学童クラブ	・民間の学童 ・前例がないからできないではなく、特区など新たな前例をつくるつもりで取り組む事が大事。
プール開放	夏のプール開放は、先生が出前に来て「水泳の指導」ということにできればここでも実施できないか。
学びの場	・勉強ができる部屋（自習室）が必要。 ・上級生が下級生に勉強を教えたり、地域の大学生が学習支援をしたりする場所を図書室とは別に確保してほしい。
校庭	狭い校庭での野球は中止してほしい。

②地域の文化

項目	参加者の意見
今までできなかった新しい機能（文化）	文化の核とする。 例）演劇を核にするとか…学校に演劇ファシリテーターを派遣する制度（文化庁）
図書の貸し出し機能	貸出・返却できる図書館カウンター機能などがほしい（本はなくてもよいので）。

③集会所

項目	参加者の意見
コミュニティの場	・ただの集会所では地域のコミュニティは生まれない。 ・コミュニケーションを取るために、集会所に喫茶店のような軽食が出るようなスペースがあるとよい。
町会の活動	町会としての活動が継続できればよい。
設備	今ある設備は使えるようにしておきたい（調理関係の設備）。

④避難所

項目	参加者の意見
避難所としての機能	避難所機能を個別に検討する必要がある。 例）ペットの居場所の確保、防災倉庫、一時避難所利用時の食料の確保、災害時の入り口確保 など
改修	避難所利用に伴う改修が必要な場合はきちんと検討してほしい。
地域利用との整合	地域が占有するスペースが増えることで避難所機能を妨げないようにしてほしい。
避難所運営	運営にあたって、避難所運営委員会との調整、地域ごとの意見交換の場が必要。
避難所運営・防災に向けた連携	避難所・防災を核として、地域の意見交換・運営の場を設けてはどうか。（防災に関わる地域住民は高齢化しているので、いざというときに若い力が必要になる、誰かが招待してくれたら、ではいけない。）

⑤利用・運営のしくみ

項目	参加者の意見
けやきネット	利用予約ルールが「けやきネット」になるのか？ (広く活用される上ではけやきネット利用はやむをえないと思うが、同じ団体だけ継続利用になるのは困る。)
既存団体の継続	地域外の利用者(顔が見えない関係)が増えるとトラブルの元になる。既存の団体だからといってそのまま活用できるというシステムはやめてほしい。
トラブル防止のしくみ	トラブル時に利用者と住民が対立するのはよくない。地域の声をくみあげ、トラブルにならない仕組み、解決できる仕組みが必要。
顔の見える関係	<ul style="list-style-type: none"> ・活用する団体と地域住民が顔の見える関係をつくることが大切。 ・運営団体が主体となって、団体間の調整やコミュニティづくりを担うことが必要。
登録団体の調整	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回意見交換会を受けて、利用団体募集を始めてほしい。1～3月に登録団体が集まる会議や場が開催できるとよい(先行してその動きをつくっていかないと4月に間に合わない)。 ・登録制度を設けて新しい地域団体が使えるようにしたい(今までの団体だけでなく子育て世代が活躍できるように)。
行政の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・行政、学校の協力がどの程度得られるのか。 ・継続的な運営のための予算(来年度以降)が必要。

《資料4》

第4回 北沢小学校後利用に向けた意見交換会 開催結果

- 1 日 時：平成29年12月2日（土） 10時～11時40分
- 2 場 所：北沢小学校 家庭科室
- 3 参加者：区民出席者 29名
区側出席者 政策企画課長、教育総務課長、教育環境課長、
北沢総合支所地域振興課長、児童課長、
公共施設マネジメント推進課担当係長 ほか
- 4 内 容：「北沢小学校後利用に向けた利用方針の考え方（案）」等の説明、
全体での意見交換

利用方針の考え方（案）と今後の進め方についての説明概要

- ・利用方針の考え方の「たたき台」から「案」への修正箇所を説明した。
- ・施設利用にあたっての利用団体間の調整について：
現在の承認団体も、改めて北沢中学校の承認を受けることになる。団体間の利用調整やルールづくりを行うための場を設けるので、区から関係団体に声かけを行う。
- ・子どもの居場所の具体的な取組み内容について：
現在検討を進めているので、取組み案の内容が固まり次第、説明会を開催する。
現時点では、平日の午後の時間帯に大人の目による見守りを確保し、児童館事業のノウハウなどを活用した取組みを検討中である。
- ・平成30年度の北沢小後利用に係る全体説明会について：
現在検討を進めているので、内容が決まり次第、説明会を開催する。
現時点では、北沢中学校の学校活動等での活用を基本とした上で、地域開放の取組みやけやきネットによる活用を継続し、行政需要を踏まえた取組みを実施する。地域開放の取組みや行政需要を踏まえた取組みとして、子どもの居場所、学習支援事業、障害児の居場所づくりなどができないか検討中である。
- ・平成30年度は、一定期間の利用状況を踏まえた上で意見交換を行う。

主な意見や質疑応答等の内容

① 子どもの居場所について

参加者の意見、質問	区の見解、回答
BOPや学童クラブを残すのか、それとも、別の事業を調整しているのか。	BOPと学童クラブは下北沢小学校へ統合するので、北沢小学校後利用では継続しません。子どもの居場所については、児童館から応援してもらおう形での見守りを検討しています。
児童館や青少年会館のようにどの時間も自由に入れるのか。	放課後の時間は自由に出入りできるように考えています。ただし、児童館や青少年会館と同じことはできないので、どのような形で実施できるかを検討しています。

② 地域団体の利用について

参加者の意見、質問	区の見解、回答
団体間のルール作りでは、最初に多くの団体が入った方が良いので、対象を広げてほしい。	学校と調整し、現在北沢小を利用している団体について、漏れがないように周知したいと考えています。
新しい団体にもどんどん使ってもらうことで、地域コミュニティは維持だけでなく広げてほしい。いつから使えるのか。	地区会館などとは違い学校なので、空いている部屋を埋めるという考え方はなく、学校長が地域との関係で柔軟に判断しています。また、学校で使わない時間帯は、けやきネットの利用もあります。利用する団体を公募して増やすことはありませんが、調整の場、会議体などの中で調整したいと考えています。新しい団体がいつから使えるかは、これからの検討です。
既存の利用団体の枠を使って他地域の団体が利用していると聞いており、問題があると感じている。	—
遊び場開放は、希望が多ければ続ける必要があるが、色々な地域の人たちが協力してくれないと難しい。	—
避難所としての機能を活かすために、団体を承認するときは、避難所であることをきちんと伝え、教室等を専用させないように配慮してほしい。	—

③ 北沢中の第2校舎とすることについて

参加者の意見、質問	区の見解、回答
下北沢小第2校舎にすれば、学童クラブやBOPを実施できるのではないか。	距離や管理の面に加え、部活動があることなどから、北沢中第2校舎と考えています。仮に下北沢小第2校舎としたとしても、新BOPは学校と同じ敷地内で安全に遊ぶという事業であることを踏まえ、北沢小後利用では新BOPを実施しません。
北沢中の魅力向上とはどういうことを言っているのか。どのように第2校舎を使うのか。魅力ある学び舎を目指すため、中学校と地域との更なる連携に取り組んでもらいたい。	現在、北沢中とも話し合っているところですが、部活動や行事での利用を考えています。具体的には決まっていますが、地域との交流を含め、魅力ある学び舎にしていきたいと考えています。今後、学校と具体的に調整していきます。

④ みどりについて

参加者の意見、質問	区の見解、回答
北沢地域のみどり率が低いので、みどりを増やしてほしい。	当面は現在の施設を活用するので、現状のみどりを維持していきます。みどりを増やすとなると管理が課題となるので、今後、新たな展開になるときに、地域の皆さんにご協力をいただきながら、何らかの形で増やしていけると良いと思います。
大きな木は手入れが必要であり、安全性も考慮してほしい。	施設管理は区が担うので、今ある樹木の適正な管理は行います。

⑤ 学校について

参加者の意見、質問	区の見解、回答
<p>北沢中の生徒数が少ないのを改善してほしい。下北沢小の子はみんな北沢中に行くなど、学区域を工夫できないか。部活を理由に、梅丘中や富士中に指定校変更してしまっている。</p>	<p>下北沢小の通学区域の全域は北沢中の通学区域となります。指定校変更については、指定校変更許可基準に基づいて審査しております。</p> <p>北沢中と下北沢小で構成している「北斗の学び舎」の中で、北沢中を盛り上げるため、新しい部活を作るなど、教育委員会全体で検討しています。</p>
<p>世田谷区は特色ある学校を目指しているので、小規模特認校、分校、単学級があってもいい。</p>	<p>教育委員会は安定した複数学級を目指して対応しています。もちろん、単学級を否定しているわけではありません。</p> <p>小規模特認校制は学校選択制の分類の1つで、通学区域に関係なく区内のどこからでも就学を認めるものですが、世田谷区は地域とともに子どもを育てる教育を推進しており、学校選択制を取っていないので、小規模特認校とすることは検討していません。</p>

⑥ その他

参加者の意見、質問	区の見解、回答
<p>スクールバスはどのような運用になるのか。冬の学童クラブの終わりの時間など、安全性に配慮してほしい。</p>	<p>学校通学路の安全対策は教育委員会で検討して、今後とも報告させていただきます。</p>
<p>行事があることで、地元と子どもを結びつけてきた。それがなくなってしまうのが心配。</p>	<p>—</p>
<p>校舎をこのままにしておくのは良い考えだ。</p>	<p>—</p>
<p>青少年北沢地区委員会に、今後も下北沢小学校P T Aを呼んでほしい。</p>	<p>今まで北沢小学校と下北沢小学校のP T Aから選出してきた人数を、下北沢小学校P T Aから推せんする予定です。</p>

《資料5》

第4回意見交換会 当日資料

北沢小学校後利用に向けた利用方針の考え方（案）

北沢小学校後利用では、用途地域等の制限、既存施設の現況等の立地条件や経費負担等の財政状況、区の課題対応、地域住民の意見等を踏まえ、以下のとおり活用する。

1 後利用検討の主な視点

(1) 北沢中学校による活用

- ・北沢中学校の魅力向上に資する校舎等の活用を検討する。

(2) 防災機能（避難所等）の維持

- ・地域の避難所としての機能を維持する。

(3) 地域コミュニティの核としての機能の維持

- ・北沢小学校が地域において果たしてきた地域コミュニティの核としての機能を維持する。

(4) その他

- ・多くの子どもたちが学び成長してきた場であることを踏まえた上で、世田谷区全体の行政需要に対応する施策等を検討する。

2 後利用の方針

既存施設を北沢中学校の第2校舎・第2体育館・第2校庭等（以下「第2校舎」という。）として、次のとおり5年程度活用する。

(1) 北沢中学校第2校舎

- ・北沢中学校は、第2校舎を活用した学校活動等（教育活動や放課後の活動等）を行う。

(2) 災害時の避難所機能

- ・災害時の避難所として活用する。

(3) 学校施設の区民利用

- ・北沢中学校の学校活動等での活用を基本とした上で、空き時間・空き教室の学校開放を行う。
- ・北沢小学校を拠点としていた地域活動団体や地域スポーツ団体などの活動については、学校等と協議しながら、地域活動の継続に努める。
- ・その他の学校施設の区民利用の具体的な方法については、地域活動や周辺保育施設等の状況を勘案し、学校等と協議しながら検討する。

(4) 子どものための場としての活用

- ・子どもが安全に過ごせる居場所や学習支援の場として、学校開放の校庭や校舎を活用する。活用方法については、引き続き検討する。

(5) 行政需要への対応

- ・その他、世田谷区全体の行政需要に対応する施策等を引き続き検討する。

3 地域住民との意見交換の場の継続

施設利用と将来の活用に向けた地域と区の意見交換を継続する。

4 将来的な施設整備と活用スケジュール

将来的な施設整備は、地域住民等との意見交換を継続しながら、施設の利用状況、建物の状況、行政需要等を踏まえて検討する。



※意見交換をしながら、運営の課題や方向性を共有する。

《資料6》

区民説明会 開催結果

- 1 日 時：平成30年3月28日（水） 午後7時～8時30分
- 2 場 所：北沢中学校 視聴覚室
- 3 参加者：区民出席者 29名
区側出席者 政策企画課長、教育総務課長、教育環境課長、
北沢総合支所地域振興課長、北沢まちづくりセンター所長、
児童課長、代田児童館長 ほか
- 4 内 容：これまでの検討経緯及び北沢小学校後利用の方針、子どもの居場所の概要

これまでの検討経緯及び北沢小学校後利用の方針

- ・北沢小学校の後利用について：
これまで地域の皆様との意見交換会を開催し、検討を進めてきた。平成30年4月からは、北沢中学校の第2校舎等として活用し、学校活動等を行うとともに、避難所機能や地域コミュニティの核としての機能を維持する。また、空き教室等を利用し、子どもの居場所としての活用を図る。
- ・平成30年度は、一定期間の利用状況を踏まえた上で意見交換を行う。

主な意見や質疑応答等の内容

① 子どもの居場所について

参加者の意見、質問	区の見解、回答
地域の大人は入室できるのか。	現在の児童館でも、子どもが過ごしている姿を地域の大人が見ていることもあるので、同じ取り扱いとします。
子どもの居場所の周知は進んでいるのか。	代田児童館では、子どもの居場所通信を4月に発行し、下北沢小学校の全児童に配布する予定です。また、児童館に来ている子どもに周知するなど、多くの方にご利用いただけるよう取り組んでいます。
利用者が少ない場合、子どもの居場所事業はなくなるのか。	現時点では利用者が少ないことを理由に事業を中止する考えはありませんが、今後の意見交換も踏まえて、検討していきます。
利用者はなぜ小学生に限るのか。	まずは小学生を対象にスタートしますが、今後の活動の様子やご意見も踏まえながら、検討していきます。

② 地域団体の利用について

参加者の意見、質問	区の見解、回答
町会が夜間に教室を使用できるのか。	学校施設は、条例に基づいて地域に開放しており、学校長の承認利用、公用利用、けやきネットによる利用などの方法があります。元々利用されていた団体や下北沢小学校の児童が関わるスポーツ団体に使っていただく方向で調整しておりますが、その他の町会等による利用については、生涯学習・地域学校連携課に相談いただければ中学校と団体利用に関して調整します。

参加者の意見、質問	区の見解、回答
地域コミュニティの核としての機能というが、今まで使っていた人たちが使うだけでは核にならない。北沢中学校と個別に交渉しないと承認団体にならないのはおかしい。	平成30年4月からの後利用に向けて、まずは現在学校を使用している団体や下北沢小学校の児童が関わるスポーツ団体が使用できるよう調整してきました。今後も、意見交換会を継続し、中学校と連携しながら有効活用の方法を検討していきます。
学校をどのように地域利用で使っていくか教えてもらえるのか。	まずはこれまでの地域団体の利用を第一優先にさせていただきます。今後については、学校と調整する中で、けやきネットの開放や新規団体の調整などを進めていきます。
引き継いだ団体は何団体あるのか。新規団体はどこと調整すればいいのか。	団体は、下北沢小学校の児童が関わるスポーツ団体が5団体のほか、大人が構成員の学校承認団体の利用があります。新規団体使用の窓口としては、生涯学習・地域学校連携課に相談いただき、中学校と調整します。
けやきネットではなく、地域の核としての地域団体を優先して使わせてほしい	学校施設においても、けやきネットにより、限られた地域だけでなく、広く一般区民が利用できる環境を整えることは、広く求められているところであります。
北沢4丁目の区民集会所が改修するので、その間の活動をやらせてほしい。	まずは、どのような活動をしている団体か確認してからの調整となります。また、けやきネットによる利用は可能です。

③ 避難所について

参加者の意見、質問	区の見解、回答
概ね5年は現施設を活用することだが、その後、避難所が無くなったらどうなるのか。	今後の将来的な施設整備の検討の中で、避難所についてもあわせて検討していきます。
避難所とする時に、現在の家庭科室のガスコンロを使わせてほしい。	安全面などから、ガスの使用はできなくなります。避難所では、家庭科室のガスコンロではなく、備蓄しているカセットコンロや炊き出し用のバーナーを使う計画になっています。

④ 施設について

参加者の意見、質問	区の見解、回答
管理体制について教えてほしい。	管理体制は、月～金曜日の7時30分～16時は学校主事、16時～22時は警備員、22時以降は機械警備としています。また、8時30分～17時15分は非常勤職員を受付に配置しております。
正門からは誰でも入れるのか。	受付において、正門から入ってこられた方の利用確認等を行うこととしております。

⑤ その他

参加者の意見、質問	区の見解、回答
いつから意見交換を行うのか。同じようなワークショップをしたら時間ももったいない。	意見交換会は、これまでに出たご意見も踏まえながら、30年度も継続して実施していきます。

《参 考》

学校跡地活用にかかる基本的な考え方（共通）

学校は、児童や生徒に良好な教育環境を提供することを目的とした施設であるとともに、災害時の避難所やスポーツ活動等地域交流の拠点として、地域コミュニティの形成に重要な役割を担っている。

また、戸建やマンション建設等宅地化の進む当区においては、学校の校庭や校舎、体育館等の敷地は、区内では限られた大規模用地である。

このため、その活用にあたっては、貴重な財産の有効活用を図る観点から、公共施設整備方針に基づき、厳しい財政状況を踏まえ、立地条件や周辺公共施設の設置状況、社会状況、将来の人口構成の変化等を考慮し、次に掲げる項目を踏まえて学校跡地活用の方向性を検討する。

（１）既存施設の活用

施設の老朽化や耐震性を考慮したうえで、改修や適切な補修工事等を行うことにより使用が可能なものについては、コスト削減の効果や新たな用途としての機能が十分図れる場合、現在の用途地域は変更せず、既存施設を活用する。

（２）防災機能の確保

区民の安全・安心を守るため、災害時の避難所としての機能（周辺の公共施設や第２順位の避難所等を含め現状の収容人員と同程度）や防災倉庫等地域の防災機能の確保を検討する。

（３）改修・改築に伴う移転先としての活用と施設の複合利用

老朽化により大規模改修・改築等が必要な近隣の公共施設について、移転・統合・再配置を含め、まちづくり支援機能や地域コミュニティの拠点として複合的な活用を検討する。

（４）仮設校舎としての活用

同じ学校施設として活用することが有効であるため、近隣の小・中学校の大規模改修・改築時における仮設校舎としての活用を検討する。

（５）自然エネルギー等の活用

太陽光発電等自然エネルギーの活用やLEDなど省エネ設備の導入により、環境に配慮した施設整備を検討する。

（６）資産としての活用

跡地活用にかかる財政負担や土地・建物にかかる維持管理経費の負担軽減を図るため、敷地の売却や貸付も検討する。

（７）施設の維持管理

施設整備後にかかる維持管理・修繕等、後年度にかかる負担も踏まえ検討する。

（８）暫定利用の検討

施設を利用しない期間が長期にわたると施設の劣化が進むため、本格的な活用を行うまでに期間がある場合については、暫定的な利用も検討する。

（旧希望丘中学校跡地活用方針より抜粋）

用途地域による建築物の制限

分類	用途	第一種 低層住居 専用地域
居住	住宅、共同住宅、寄宿舎、下宿	○
	兼用住宅のうち店舗事務所等の一部が一定規模以下のもの	○
文教	幼稚園、小学校、中学校、高等学校	○
	図書館等	○
	大学、高等専門学校、専修学校等	×
宗教	神社、寺院、教会等	○
医療 福祉	老人ホーム、身体障害者福祉ホーム等	○
	保育所等、公衆浴場、診療所	○
	老人福祉センター、児童厚生施設等	△ 600 m ²
	病院	×
レジャー 施設	ボウリング場、スケート場、水泳場、ゴルフ・バッティング練習場等	×
商業	床面積の合計が 150 m ² 以内の一定の店舗、飲食店等	×
	床面積の合計が 150 m ² を超え、500 m ² 以内の店舗、飲食店等	×
	上記以外の物品販売業を営む店舗、飲食店（兼用住宅のうち店舗、事務所等の部分が一定規模以下のものは可）	×
	店舗、飲食店、展示場、遊技場、勝馬投票券販売所等でその用途に供する部分の床面積の合計が 10,000 m ² を超える大規模な集客施設	×
	上記以外の事務所等（兼用住宅のうち店舗、事務所等の部分が一定規模以下のものは可）	×
	ホテル、旅館	×
	2階以下かつ床面積の合計が 300 m ² 以下の自動車車庫	×
	上記以外の商業施設	×
工場	兼用住宅で、作業場の床面積 50 m ² 以内の自家販売のための食品製造業を営むパン屋、米屋等	○
	作業場の床面積 50 m ² 以内の自家販売のための食品製造業を営むパン屋、米屋等	×
	作業場の床面積 50 m ² 以内の食品製造業を営むパン屋、米屋等	×
	作業場の床面積の合計が 50 m ² 以下の工場で危険性や環境を悪化させるおそれが非常に少ないもの	×
	火薬類、石油類、ガス等の危険物貯蔵、処理の量が非常に少ない施設	×
	上記以外の工場	×
その他	巡査派出所、公衆電話、一定規模以下の郵便業務、電話局	○
	自動車教習所、床面積の合計が 15 m ² を超える畜舎	×

○：用途上可能 △：条件付可能 ×：不可能

※ 第一種低層住居専用地域においては、600 m²以下なら区の庁舎等事務所の建設可能。

(旧希望丘中学校跡地活用方針より抜粋)